

出張報告書

令和 6 年 3 月 4 日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 無所属  
 代表者氏名 池田 りな  
 出張者氏名 池田 りな

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

- 出張期間 令和 6 年 1 月 23日から令和 6 年 1 月 24日まで
- 結果の概要

用務先 中央区 墨田区  足立区 豊島区	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 一般財団法人日本財団母乳バンク・母乳バンク視察 2 子育て応援賃貸マンションネウボーノ菊川・ 子育て応援賃貸マンション事業視察 3 社会福祉法人 どんご会・北千住 どんご保育園 4 地方議会議員セミナー「進む教育改革～足立区の不登校対策と学力向上策～」講義
添付書類 <input type="checkbox"/> 出張報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考

- 届出事項の変更等  なし  あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

精算額は、令和 6 年 1 月 19日届け出た額 ( 45,180 円) と同一額である。

届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

# 出張視察報告書

尼崎市議会議員 池田 りな

## 母乳バンクの啓発について

日程:2024年1月23日(火) 10時~12時

場所:東京都中央区「一般社団法人 日本母乳バンク」

2017年5月、当協会は日本の新生児医療において「母乳」の活用を促進することを目的として設立されました。医療の発展により生まれたときの体重が1,000グラム未満の未熟児でも助かる時代になりました。様々な事情で母乳があげられない赤ちゃんには粉ミルクや点滴で栄養を与えます。早く生まれた赤ちゃんにも、できるだけ早くからおなかに栄養を与え、早期に体重が増加し点滴が早くやめられるなどの多くの利点があります。お母さんの母乳が出るまでの間を母乳バンクから提供する「ドナーミルク」でつなぐという考えが広がってきています。

母乳バンクの役割は2つあります。まず1つ目は、ご自身のお子さんが必要とする以上に母乳が出るお母さんから寄付を受けた母乳を適切に低温殺菌処理・細菌検査を行い、冷凍保管した上で、NICU（新生児集中室）の要請に応じて、「ドナーミルク」として早産・極低出生体重（体重1500g未満）の赤ちゃんに提供する仕組みです。

次に2つ目は、母乳育児の各種研究です。搾乳時のお母さんの状況や細菌検査結

果などから、ドナーミルクとして利用できないと判断した母乳を用いて研究を行っています。災害時にも備えておける、母乳から作られた粉ミルクも見せていただきました。



母乳の研究事例として、乳の分泌を誘発するホルモンを使ってトランスジェンダー女性が授乳できるようになった海外の症例の紹介もありました。

母乳ドナーの必要性を2点挙げます。1点目は、母乳を必要としている赤ちゃんは年間約5,000人いるそうです。尼崎市は、極低出生体重児（1500g未満）の数は、令和3年26人（※）と報告されています。出生数は減っていますが極低出生体重で生まれる子が年々増えています。

（※）引用元：「保健行政の概要（尼崎市保健所）」P.142

[https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/shisei/sogo\\_annai/toukei/049hokengyousei.html](https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/shisei/sogo_annai/toukei/049hokengyousei.html)

2点目は、母乳は赤ちゃんの生死にかかわるのが壊死性腸炎という腸の一部が壊死してしまう病気から命を救えることです。壊死性腸炎は、母乳で育てたときよりも

粉ミルクで育てたときのほうが高確率で起こることがわかっています。

同団体の常務理事の田中麻里さんは、運営上の課題は 2 点あるとおっしゃっていました。1 点目は、新規ドナーの登録です。母乳ドナーのお母さんは自身の子どもの母乳育児中にドナーとなります。授乳は一時的なものになるので、常に新しいドナー登録が必要です。現在、母乳ドナー登録施設は 9 都道府県 17 施設しかありません。大阪府には 1 件もありませんが、兵庫県では唯一尼崎市の古賀小児科が登録施設になっています。

そのため、母乳ドナーになりたくても登録にいけないお母さんが多いのが実状です。受入施設では、血液検査や搾乳方法の指導なども行い、手間もかかる上、費用補助も決して高くないため、登録施設になることが難しい点も要因ではあります。

2 点目は、母乳バンク使用の施設を拡大することです。初年度は、母乳バンクから無償でドナーミルクが提供されますが 2 年目以降は導入にはコストがかかるため、導入をためらう施設も多いとの事です。尼崎市では、兵庫県立尼崎総合医療センターが母乳バンク使用施設に登録されています。

### 尼崎市政に活かしたいこと

尼崎市は、他都市に先行して母乳バンク使用施設と母乳ドナー登録施設があります。私の周りにも、母乳が出すぎて乳腺炎などになるお母さんも多くいます。今後、尼

崎市において母乳ドナーの啓発をしていきます。早速、私は保健所健康増進課に愛知県のように母子手帳を交付する際に、母乳バンクのチラシを同封していただくよう要望しました。これにより、市民の方々に母乳バンクに関する情報をより広く提供し、母乳ドナーへの関心を高めることが期待されます。



▶愛知県で母乳バンク普及啓発用フライヤーを配布

<https://milkbank.or.jp/wp-content/uploads/2023/10/cca918a3d87a8d05761d4c7906a90e0a.pdf>

母乳バンクを知っていますか？

＜ドナー登録申請はこちら＞  
ご都合の良い寄附先がある方へご申請ください。

愛知県にも母乳バンクが開設されました。

日本母乳バンク協会



日本母乳バンク



静岡医科大学病院  
日本財団母乳バンク



## ドナーミルクが赤ちゃんに届くまで

- ドナー（日本財団母乳バンク）
  - ・ 01. ドナー登録申請（フォーム送信等）
  - ・ 02. ドナー登録施設での問診・血液検査→正式ドナー登録
  - ・ 03. 自宅での搾乳・冷凍
  - ・ 04. 母乳の送付（冷凍便・日本財団母乳バンクへの着払）
- 日本財団母乳バンク（処理）
  - ・ 05. ドナーミルクの受取り・冷凍保管（-20℃以下）
  - ・ 06. 細菌検査・低温殺菌処理
  - ・ 07. 冷凍保存（-20℃以下を搾乳日から6カ月で廃棄）
  - ・ 08. ドナーミルクの識別
  - ・ 09. NICUからの要請受付
  - ・ 10. ドナーミルク発送（冷凍便）
- NICU（赤ちゃん）
  - ・ 11. ドナーミルクの受取り・冷凍保管（-20℃以下）
  - ・ 12. 親の承諾を得た赤ちゃんにドナーミルクを与える

### 子育て世帯向けの住居支援について

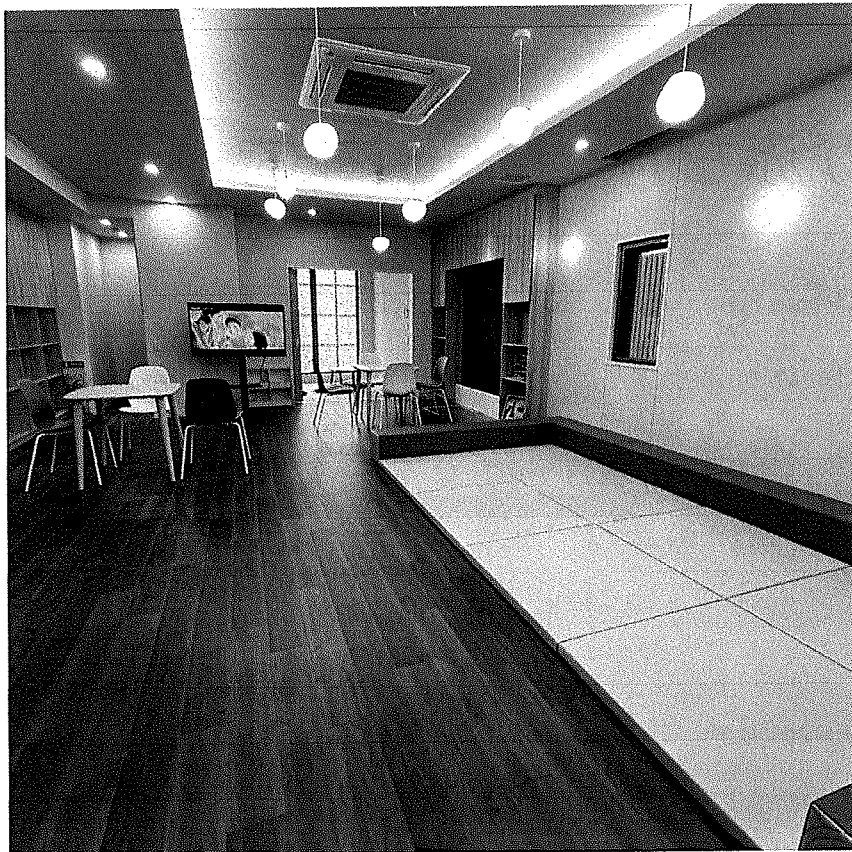
日程:2024年1月23日(火) 14時~15時30分

場所:東京都墨田区「子育て応援賃貸マンション ネウボーノ菊川」

ネウボーノ菊川は株式会社萬富の子育て支援賃貸マンションです。フィンランド発祥のネウボーノとは、妊娠期から出産、子供の就学前までの間、母子とその家族を支援する目的で、地方自治体が設置・運営する拠点を指します。

特筆すべき点は3点あります。1点目は、週7日12時~17時まで保育士が常駐するキッズルームです。また、育児負担を軽減するために有料の一時預かりも用意されており、施設内には砂場や畑も備えられ、保育士は子育て相談に気軽に応じ、マ

マたちを繋ぐコーディネーターの役割も果たしています。



2点目は、子育て世帯に配慮した機能を有する住まいづくりです。乳幼児の事故予防という観点からも工夫された取組がいたるところにありました。下記写真をご覧ください。



写真1



写真2



写真3



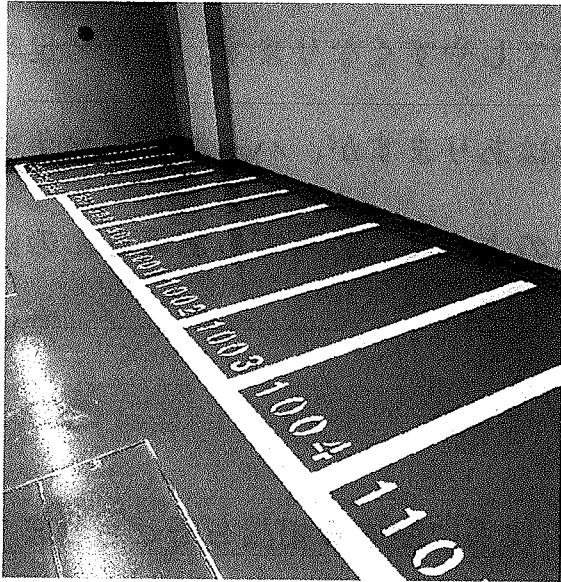


写真4



写真5

部屋のすべてドアには手を挟まないようにカバーがついておりました。(写真1) 溺水予防でお風呂の鍵も高い位置つけられていました。(写真2) 子供が誤って室外機に乗って落ちないように、室外機は手前に配置されておりました。(写真3) 子供乗せ電動自転車に対応した、広めの駐輪置き場(写真4)、他にも子育てを手伝いにきてくれたおじいちゃんおばあちゃんも泊まれるゲストルーム(写真5)もありました。

3点目は、「安心して子育てできる住宅」として、「東京こどもすくすく住宅認定制度(旧東京都子育て支援住宅認定制度)」と「すみだ良質な集合住宅認定制度」から認定されていることです。一定の基準を満たされた住居のため、子育て世帯も安心して住むことができます。

### 尼崎市政で活かしたいこと

尼崎市では、行政・民間が提供する子育て世帯向け賃貸マンションはありません。歩いていける距離に子育て広場がない地域もあるため、ネウボーノ菊川のような保

育士さんが常駐するマンションがあれば子育てしやすくなります。子育て世帯向けマンションでキッズルームがあるマンションはありますが、ハード面に加えてソフト面の支援、ネウボーノ菊川のキッズルームのように、いつでもお母さんの話し相手がいることが重要です。

私の元には、ひとり親を含む子育て世帯から住居に関する相談も寄せられます。今後、空いている市営や県営住宅なども活用し、子育て世帯向け住居が提供できるよう他市の事例も研究し、引き続き提案して参ります。



### インクルーシブ保育園について

日程:2024年1月24日(水)10時~12時

場所:東京都足立区 社会福祉法人どろんこ会 北千住どろんこ保育園

インクルーシブ保育とは、すべての子どもたちが障害や文化的多様性にかかわら

ず、同じ場で学ぶことを目指すものです。どろんこ会グループは 2015 年から「混ざり合って育ち合う」＝「インクルージョン」をキーワードにした子育てを実践しています。同団体は「認可保育所＋児童発達支援センター・事業所の完全併設施設」を運営しています。視察した施設には北千住どろんこ保育園、発達に気がかりなところがある児童を支援する「発達支援つむぎ」、北千住ルーム地域子育て支援カフェ「TSUMUGI CAFE (つむぎカフェ)」があります。

特筆すべき点は 2 つあります。1 点目は、児童発達支援事業所と保育園に通う子どもたちが一緒に過ごすことです。これは、従来の省令では認められていませんでしたが、2022 年の厚生労働省の省令改正により、保育園と児童発達支援センター・事業所が同じ施設を共用できるようになり、スタッフも双方の子どもの支援が可能となりました。2024 年 1 月時点でどろんこ会グループは保育園と児童発達支援の併設施設が 12 か所あります。令和 3 年度尼崎市では児童発達支援は 43 箇所ありますが、保育園と併設されている施設はまだ存在しません。

2 点目は、特色ある教育（インクルーシブ保育・食育・性教育など）に力を入れていることです。この時期の子どもたちは、何事も純粋に学ぶことができ、その後の人生に活かされることが多くあります。食育の一環とし、自分達で飼育した鶏をしゃもで食べる「命をいただく会」を実施しているそうです。これは参加が強制ではなく、保護者に希望を聞いて行われています。インクルーシブ教育保育の壁は、大人が作りだしているものだと言われています。息子の友達にも障がいを持った子ども

がいますが、共に育つ中で子どもたちは、〇〇ちゃんの苦手なことや得意なことを自然に理解しています。性教育でも、子どもたちは年齢が上がると恥ずかしさを感じるかもしれませんが、未就学児は自然と受け入れているように感じます。

### 尼崎市政で活かしたいこと

私の元には「障がいや特性を持った子どもたちが保育園や幼稚園で入園を断られてしまう」「子どもが障がいや特性を持っているので、子育て広場やショッピングモールにも行けず親子で行く場所がない」という声が寄せられます。特別な支援が必要な子どもと保護者が生きづらさを感じているように感じます。その中で、どろんこ会さんが力を入れているインクルーシブ保育に注目し、実際に視察してきました。

インクルーシブ保育・教育実現に向けて国の方針や市の予算に縛られず、どうしたら実現できるかを引き続き考えます。尼崎市においても、障がいや特性を持った子どもの保護者が子育てしやすい環境を整えていきます。保育園や幼稚園の受け皿を増やすことは当然のことですが、どろんこ保育園に併設された北千住ルーム地域子育て支援カフェ「TSUMUGI CAFE（つむぎカフェ）」のような居場所創りを積極的に提案して参ります。



## 足立区の教育政策（不登校対策・学力向上策）について

地方議会議員セミナー「進む教育改革～足立区の不登校対策と学力向上策」

講師：文教大学客員教授・前足立区教育長 定野 司様

日程：2024年1月24日(水)14時～17時

東京都足立区では、子どもの政策に力を入れています。貧困の連鎖を区内の大きな課題の一つとして、2015年度を「子どもの貧困対策元年」と位置付け、全国に先駆けて「未来へつなぐあだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」を策定しています。生活困窮世帯を対象にした居場所事業を認定NPO法人カタリバが受託し、困難を抱える子どもたちの居場所を提供する「アダチベース」を運営しています。

令和4年度における区立小・中学校において、対前年度増加率並びに不登校生徒の割合は、国及び東京都の数値を下回っています。個々の不登校の状況に応じた多様な支援を、継続的に実施してきた効果が現れているのではないかと講師の先生が述べていました。

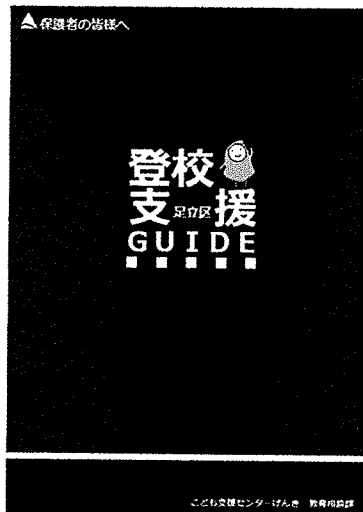
2024年4月には、私立の学びの多様化学校「東京みらい中学校」（不登校特例校）が開校されます。同校は、不登校児童・生徒を対象に編成した特別なカリキュラムに基づき教育を行う国指定の学校です。

尼崎市が参考にしたい足立区の取組「不登校児童・生徒数の未然防止事業」を3点あげます。1点目は、教室への入室が困難な生徒や一時の休息が必要な生徒に対して、気兼ねなく過ごすことができる部屋を校内に設置していることです。登校への敷居を低くすることで、不登校を未然に防止、学校長OB等の指導員が学習指導にも対応しているそうです。この事業は、効果が出ており、令和5年9月議会に「登校支援室（仮称）」六月中学校で実施されたモデル事業、不登校未然防止事業を足立区全小・中学校で行うことを求める請願も市民から提出されています。

尼崎市においても令和6年度より不登校の未然防止の視点から教室での学びに「しんどさ」を抱える児童生徒の居場所・回避場として『校内サポートルーム・エリア』が整備されます。先行する足立区の登校支援室を参考すべきだと考えます。

2点目、登校支援GUIDEを作成し全世帯に配布していることです。不登校はどの子にもおこりえるので、子どもも保護者も行政民間の支援を知る必要があります。尼崎市では「不登校の子ども理解支援ハンドブック」が作成されていますが全世帯に配布は行っていません。

▶東京都足立区 登校支援ガイド | 足立区 ([city.adachi.tokyo.jp](http://city.adachi.tokyo.jp))



3点目は、13日以上欠席した場合、学校・ソーシャルワーカー・スクールソーシャルワーカーが中心となり支援シートを作成し、毎月報告する取組です。文部科学省は、不登校児童生徒を「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの」と定義しています。足立区のように早い段階から学校に行きづらい子供たちを支援していく必要性があります。

次は、学力政策についてです。成績上位で学習意欲も高いが、家庭の事情などにより塾等の学習機会の少ない生徒を中心として、民間教育事業者を活用した指導力の高い講師による学習機会を提供する「足立はばたき塾」です。塾生たちは、民間学習塾でもトップクラスの講師の下、他校のライバルたちと切磋琢磨し、志望校の受験に挑んでいます。

尼崎市でも親の経済格差が子どもの教育格差にならぬよう、塾代・習い事助成を提案していますが、予算がないという理由で実現に至っていません。「足立はばた

き塾」のような、塾代助成だと助成人数も少なく実現可能性があると感じました。

引き続き、足立区のような塾代助成も提案して参ります。

▶足立はばたき塾 <https://www.city.adachi.tokyo.jp/gaku-tei/k->

[kyoiku/kyoiku/habataki.html](https://www.city.adachi.tokyo.jp/gaku-tei/k-kyoiku/kyoiku/habataki.html)

令和6年度  
新中3生向け  
足立はばたき塾  
塾生募集

「進学をウェブサイトにあきらめない」

TEL: 03-3822-2222 FAX: 03-3822-2222  
E-MAIL: habataki@adachi-edu.ac.jp  
HP: www.habatiki-juku.com

〒112-8555 東京都足立区北千住1-1-1  
足立区立教育センター  
1階 市民ホール

03-3822-2222